The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	臨床死生学・老年行動学研究室20周年
Author(s)	佐藤, 眞一
Citation	生老病死の行動科学. 2014, 17-18, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/36363
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻 頭 言

臨床死生学・老年行動学研究室20周年

The twentieth anniversary of Department of Clinical Thanatology and Geriatric Behavioral Science

佐　藤　眞　一

1993年度に柏木哲夫先生が初代教授として講座を開設後，2013年度に20周年を迎えることができました。前年度に研究室の改修工事が終了し，新たな気持ちで21年目のスタートを切ることができました。そこで，本誌は第17巻・第18巻合併号（研究室開設20周年記念号）として，通常の研究論文に加えて，柏木先生と第２代教授・藤田綾子先生からご寄稿いただいた当研究室の思い出に関わる文章を掲載させていただくとともに，私たち現在の３名の教員が専攻する老年心理学を日本で本格的に開始した大阪大学名誉教授・橘覚勝先生のアーカイブを本研究室に設置するための特別論文を掲載致しました。

講座開設から現在までの教員の異動は以下の通りです。

1993年　講座開設・柏木哲夫教授着任
1996年　大講座制へ改組（人間行動学講座内の研究室となる）
2000年　大学院重点化
2001年　恒藤暁助教授着任
2003年　藤田綾子教授着任
2006年　恒藤暁助教授　医学系研究科に異動
2007年　権藤恭之准教授着任
2009年　佐藤眞一教授着任

講座開設から2011年度までは平井啓氏が，そして2012年度から現在は中川威氏が助手・助教として教室の運営を支えて下さいました。

この間，柏木先生が専門とされる臨床死生学から藤田先生の専攻される老年行動学へと研究室の重心は多少移動しましたが，本誌のタイトルでもある「生老病死」を多面的に研究する態度は今後も維持し続けていきたいと考えています。

私もこれまで老年行動学により近い内容の研究を進めてきたため，着任に当たって考えていたのは，臨床死生学と老年行動学をどう結びつけるかということでした。柏木先生と藤田先生のご著書を拝読した後，初めて本誌のとりまとめをしているときに，「生老病死」という人の生涯発達を大きな枠組みにして学生指導と研究に取り組もうと決意しました。

2013年６月に大阪中之島地区で関連６学会が同時開催する日本老年学会総会が行われました。そのうちの第55回日本老年社会科学会大会の大会長を私が拝命し，事務局を当研究室が務めました。大会開催に当たって，「生老病死の科学と教育」をテーマとし，「生老病死」それぞれに関するシンポジウムを企画しました。このテーマタイトルは，当研究室の課題そのものを意識したものです。

本記念号にも大学院生を中心とした研究室スタッフの論文が多数掲載されています。どれも「生老病死」に関連する研究活動の成果です。研究内容の多様性を感じていただければ当研究室の方向性をご理解いただけると思います。

また，先の学会大会では，「橘覚勝アーカイブ展示」として，橘先生の博士論文を中心に，学生時代のノートや趣味の絵画や短歌（筆書短冊）も展示し，研究だけではない先生の多彩な才能を皆様に知っていただきたく，企画しました。詳細は，本巻掲載の関連論文にゆずりますが，企画に当たって，橘先生のご実家である浄國寺に何度も訪れ，ご家族の皆様にたくさんの思い出話もうかがいました。日本の老年心理学の源流である橘先生の軌跡を永く留めるために，当研究室内にアーカイブを設置致します。

臨床死生学・老年行動学研究室は21年目の新たなページを開きました。今後とも本誌と当研究室にご指導とご支援を賜れれば幸甚に存じます。

……

「生老病死の行動科学」第17巻・第18巻合併号（研究室開設20周年記念号）をお届けします。インターネット上での公開もしていますので，そちらもご覧いただければ幸いです。

大阪大学学術情報庫（OUKA）http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/

また，当研究室のホームページからもご覧いただけます。

臨床死生学・老年行動学研究室　http://rinro.hus.osaka-u.ac.jp/